

科目ナンバー	D9201	要件	保育必修	授業形態	演習	対象学生	I A B I I C D
授業科目	保育実習指導(保育所)						
実施期	通年	単位数	2単位 (保育所1単位+施設1単位)	授業者	飯田 恵美子・西田 外美江		
【科目の概要】							
保育実習の意義を理解し実習に向け、保育所の法的根拠や保育内容などを学習する。実習までに行うべき準備、オリエンテーションの受け方、保育所訪問、実習日誌の記載の仕方、実習の心構え、実習終了後の礼状、実習の振り返りなどを学習する。							
【この科目を通して獲得を目指す力】							【関連DP】
ア	保育実習の意義や目的、保育内容や保育士の役割を理解し、保育士としての専門的知識を修得している。						1-c 1-e
イ	社会人として必要な知識やマナーを身に付け、手遊び・歌・造形表現など子どもに分かりやすく伝える表現方法や教材開発力を身に付けている。						1-a 2-d
ウ	子どもの発達の手筋を理解し、指導案を作成することができる。						1-d 3-c
エ	実習に向け自己課題を認識し、子ども理解や自己の資質向上に努める。						1-d 4-d
【授業の内容】					【実施日】	【授業時間外学習の内容】	
1	実習の意義と目的、保育所の社会的役割、保育士の倫理観について				月 日	シラバス、実習の手引きの該当ページ、保育所保育指針（第1章）を読んでおく。（1時間）	
2	保育所についての理解（保育所の一日、見学実習とDVD視聴）				月 日	実習の手引きの該当ページを読んでおく。（1時間）	
3	保育所見学				月 日	見学実習のポイントを整理して実習に臨む。（0.5時間）	
4	子どもの発達（0～6ヶ月）と手遊び				月 日	発達の該当ページの事前学習と手遊びを演習できるようにしておく（1時間）	
5	子どもの発達（6ヶ月～12ヶ月）と手遊び				月 日		
6	保育所実習Ⅱ（実習計画・諸手続き）について				月 日	実習の手引きの該当のページを読んでおく。（1時間）	
7	子どもの発達（1歳～2歳）と手遊び				月 日	発達の該当ページの事前学習と手遊びを演習できるようにしておく（1時間）	
8	子どもの発達（2歳～3歳）と手遊び・シラバスレベルチェック				月 日		
9	子どもの発達が分かるDVD視聴と視聴を通しての気づきと学び				月 日	0～2歳の発達を復習しておく。（1時間）	
10	実習日誌の書き方（ねらい・内容・環境・援助等の理解と書き方）				月 日	実習の手引きの該当ページを読んでおく。（1時間）	
11	実習日誌の作成（援助などについて自分なりに考えて作成）				月 日	援助についての書き方を復習しておく。（1時間）	
12	部分指導案の作成（グループワーク）				月 日	参考図書などを参考にしながら指導案を作成できるようにしておく。（1時間）	
13	作成した指導案を基に演習（グループワーク）				月 日	指導案のように演習できるように練習しておく。（1時間）	
14	保育実習のための心得・オリエンテーションについて				月 日	実習の手引きを読んでオリエンテーションに臨めるようにする。	
15	礼状の書き方及び、実習後の振り返りと自己課題についてとDVD視聴				月 日	模擬礼状を自分で作成する。	
16	実習課題の作成と実習直前指導				月 日	実習の手引きの該当ページを読んでおく。自己課題を整理する。（1時間）	
【教科書・テキスト】				【成績評価の方法】			
保育所保育指針、保育所保育指針解説書（フレーベル） 実習の手引き（保育所・幼稚園・施設実習）（本学発行） フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画				学習態度・意欲等の履修状況 20% ノート・指導案・演習・DVD等のプリント 80%			
【参考書・教材】 保育指導案大百科事典 開 仁志（一藝社）							
【履修要件及び履修上の注意事項】 ・つどい又はちびっこ広場に1回以上参加すること。 ・欠席した時には必ず授業内容及び提出物の確認にくること。							
【履修上の遵守事項】 20分以上の遅刻で欠席1回とみなす。提出物は期限厳守すること。							
【連絡先・オフィスアワー】 連絡先：N13 オフィスアワー：							

＜チェックシート＞					
指標		基準	レベル 1	レベル 2	レベル 3
ア ①	保育実習の意義や目的、保育者としての役割理解	保育実習の意義や目的、内容や保育士の役割について説明できる。	保育所の特性や保育士の職務について自分なりに言葉で説明できる。	保育実習の意義や保育者としての役割を理解し、実習に向けて自分なりの課題を説明できる。	
ア ②	子どもの人権と最善の利益、プライバシーの保護と守秘義務の理解	保育指針を読み、子どもの最善の利益、守秘義務について話すことができる。	子どもの人権、最善の利益、守秘義務について理解し、説明できる。	日常生活の中で、子どもの人権や、最善の利益を守る為の支援を、具体例を挙げて説明できる。	
イ ①	社会人として必要な日常生活の常識とマナーの習得	社会人として必要な知識、公共の場でのマナーについて説明できる。	社会人としての知識やマナーについて、自分の日常生活や態度を振り返ることができる。	社会人、保育士としての態度や責任感を学び、自分の課題を見出し、実践しようとする。	
イ ②	保育技術の分かり易い伝達方法の習得	手遊び、歌、様々な造形活動を3個以上できる。	いろいろな手遊びや造形活動を友だちと一緒にしたり、友だちの前で演じたりできる。	表現遊びや造形活動を対象年齢を考慮し仲間と実践し合い、楽しさや面白さに気付く。	
ウ ①	子どもの年齢別発達の理解	子どもの年齢別発達の姿を理解する。	年齢別発達の姿を考慮し、適切なかかわり方を考えることができる。	年齢別の適切な関わり方を身に付けている。	
ウ ②	指導案の作成能力	指導案の書き方を知る。	自分なりに実習の意手引きや資料を参考にして指導案を作成する。	年齢別の保育内容を考え、指導案を作成できる。	
エ ①	乳幼児理解への関心	身近な子どもの様子、状態、行動等を観察し理解に努める。	身近な子どもを観察し、「乳幼児理解」に関する本を1冊読み、子どもの行動について分析し、理解する。	子どもに接する機会を自ら求め、一緒に遊んだり進んで言葉かけをしたりして、実際の子どもへの学びを深める。	
エ ②	実習課題への取組と自己の向上	実習に向けて自己課題を3個以上考えることができる。	考えた課題を整理・復習し、実習での学びに繋がるように努める。	実習に向けて、自己の不十分な点について改善・研鑽するとともに、感性豊かに過ごす。	
この科目を通して学んだこと、獲得できた力、できなかった課題等					

科目ナンバー	D9205						
授業科目	保育実習指導(施設)	要件	保育必修	授業形態	演習	対象学生	II CD
実施期	通年	単位数	2単位 (保育所1単位+施設1単位)	授業担当者	岩本 健一		
【科目の概要】							
施設で子どもと生活等を共にしながら、その業務内容や保育者の役割を学ぶ。また保育者として求められる態度、行動、倫理観、支援の技術を学び、支援を実践する。また施設の課題等についても理解を深める。							
【この科目を通して獲得を目指す力】							【関連DP】
ア	社会的養護を担う施設の役割、機能、支援方法を理解している。						1-d
イ	保育士などの支援職員とのコミュニケーションを通じて、支援技術を身に付けている。						2-b
ウ	子どもの動き等を観察して、日々の日課を担うことで、支援に必要な事柄を思考することができる。						3-c
エ	幅広い年齢の子どもとの関わりを通じて、子どもの発達や気持ちを理解し、関心を高めようとしている。						4-c
【授業の内容】				【実施日】	【授業時間外学習の内容】		
1	1 施設の目的と機能 ①施設の目的と機能			月 日	実習施設についての理解を学習する。日課の流れを理解し、指示がなくても動けるようにする。		
2	②施設の日課と行事等			月 日			
3	③施設保育士の役割とその業務 (意見発表)			月 日			
4	2 子どもへの理解 ①入所および通所している子どもの特徴への理解			月 日	子どもの名前や特徴を確実に覚える。子どもの日課の動きから子どもの発達や気持ちを理解する。その時に対応する保育士の動きを観察する。		
5	②子どもの生活・訓練をともにしながら観察と記録の作成			月 日			
6	③個々の子どもの特徴とその支援方法			月 日			
7	3 養護内容・生活環境 ①子どもの生活環境への理解		(獲得を目指す力の確認)	月 日	実習に際して作成した目的が具体的にどのようにすれば達成できるのかを思考し、実践する。また施設の日課等を通じて、どのように施設が取り組まれているのか、職員に質問するなど積極的に関わる。		
8	②計画に基づく活動と着眼点、実際の支援内容			月 日			
9	③子どもの心身の発達を促進させる環境づくり(安全管理)			月 日			
10	④生活指導、個々のケア、訓連などの内容理解			月 日			
11	4 支援計画と記録 ①自立支援計画に基づく支援の展開			月 日	施設に入所している子どもの心のケアや治療施設においてはその治療を観察し、支援の展開を学習する。施設が社会とどのように結びついているのかを学習する。実習を振り返り、課題と今後の学習への取り組みを考える。		
12	②記録に基づく省察、自己評価 (意見発表)			月 日			
13	5 専門職としての態度と倫理 ①職員として求められる態度と倫理			月 日			
14	②職場のチームワークと役割			月 日			
15	③地域機関との連携			月 日			
16				月 日			
【教科書・テキスト】 より深く理解できる施設実習 松本峰雄監修 萌文書林				【成績評価の方法】 実習施設での評価 60% 日誌、報告で40%			
【参考書・教材】 施設の運営指針(社会福祉協議会)							
【履修要件及び履修上の注意事項】 本学の実習要件を満たしていること。実習先の評価が不可の場合、他の成績が良くても不可となる。また実習の誓約書や身だしなみなど必要な準備ができない時は、実習を延期とする。課題については、フィードバックを行う。							
【履修上の遵守事項】 実習先での出来事については、大学、指導教員に必ず報告すること。							
【連絡先・オフィスアワー】 連絡先：N5岩本研究室 オフィスアワー：							

＜チェックシート＞					
		基準	レベル1	レベル2	レベル3
指標					
ア①	施設の目的、役割についての基礎的な知識	実習施設について実習前に調べ、ある程度概要を把握している。	実習先の施設種別に応じて、その機能と役割を説明することができる。（教科書記載程度）	実習先の施設等について、他の資料等も調べ、説明することができる。	
ア②	施設生活の流れや行事などの意義と支援についての理解	施設の日課や流れを知っている。（実習マニュアルに記載された程度）	施設の生活の流れについて、その特徴も含め説明することができる。	施設の流れを理解し、そのことが子どもの健全育成にどのように結びついているのか説明することができる。	
ア③	施設に入所している子どもの特徴や家族背景についての知識	入所児童（通所）の特徴を知っている。	入所・通所児童の特徴を3つ程度説明することができる。	入所および通所児童の特徴を理解し、支援方法や課題について説明することができる。	
イ①	子どもとコミュニケーションをとる技術	特定の少人数の子どもと会話を交わすことができる。	担当した子どもとコミュニケーションをとり、話題を発展させることができる。	施設に在籍している子どもと分け隔てなく、会話をもち、話題を発展させることができる。	
イ②	職員と適切な関係を持ち、コミュニケーションをとる技術	施設職員に必要な支援を聞き、やることことができる。	施設職員の指示以外に、疑問に思った点などを聞き、支援を考えることができる。	施設職員と意見交換ができ、支援に必要な計画などを話し合うことができる。	
ウ①	支援内容の理解に基づき、その支援を展開できるように計画の立案	実習目的に応じて、計画を立てることができる。	実習目的に応じてたてた計画について、実際の実習でできなかった場合、修正して行動することができる。	実習目的に応じて、計画を修正し、行動し、その結果を振り返ることができる。	
ウ②	保育に関する支援計画の立案（設定保育も含め）	施設等で出された課題（設定保育も含め）について簡単なものを立案することができる。	施設から出された課題（節亭保育も含め）いくつかを立案し、施設職員と話し合うことができる。	施設職員からだされた課題について立案し、実際にやってみて、ふり仮りを行うことができる。	
エ	実習を通じて、施設の役割、保育士の役割などについてさらなる関心	施設保育士の行動や態度を観察することができる。	施設保育士の態度や行動を監察し、自ら率先して行動することができる。	施設保育士の行動や態度を監察し、実際にやってみて、その結果について話し合うなど振り返ることができる。	
この科目を通して学んだこと、獲得できた力、できなかった課題等					